

変化をとらえ、変化にチャレンジ!

本格的な業績回復と中長期的な発展に向けて。

第76期 中間事業報告書
2003年4月1日～2003年9月30日





関 誠夫(せき のぶお)

略歴

1970年4月 入社

1987年5月～94年5月

米国千代田インターナショナルコーポレーション出向

1994年5月 ファインインダストリーズ プロジェクト部長

1997年6月 取締役 SIプロジェクト本部副本部長

1998年6月 常務取締役 企画管理部門 副部門長

2000年8月 専務取締役 事業統括

2001年4月 取締役社長

注：心臓破りの丘

米国マサチューセッツ州ボストンで開催されるボストンマラソンのコースで、30km手前地点から35km地点ぐらいいまで長く、全コースで最後の長い上り坂。この坂を越えると、ゴールが確実に見えてくる。年初に当期を心臓破りの丘に例え、皆でゴールを切れるように邁進しています。

技術力、プロジェクト遂行力、 リスク管理能力を継続的に改善しています。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第76期中間期(2003年4月1日から2003年9月30日まで)の会社概況について、ご報告申し上げます。

上半期を振り返り：概ね計画通り順調な仕上がりに

前期に達成した、営業・経常・当期利益の単年度黒字化の勢いを駆って、全役職員一丸となり、「心臓破りの丘^注」を登り始めました。重症急性呼吸器症候群(SARS 等の問題があり、横風もありましたが)、リスク管理能力が向上したおかげで、当中間期までは転ぶことなく概ね計画通りの順調なペースで来ております。

2003年度キャッチフレーズ：「変化をとらえ、変化にチャレンジ」

リスクの芽を早期に察知し摘み取る仕組み作り、あるいは、為替変動に対する手当て等、やるべきことはしっかりやってきており、確実性の高い、健全な経営に生まれ変わったと確信しておりますが、気を緩めることなく邁進してまいります。顧客要望の変化や市場動向の変化を見逃さずしっかり取り込み、顧客満足度の更なる向上に向けて適切な対応を取ることできるよう、当社にとっていわば両足の筋力にあたる、技術力、プロジェクト遂行力、リスク管理能力を継続的に改善していきます。

2003年度下半期の見通し：再建の確信を実証へ

心臓破りの丘は、頂上に近づく程、その傾斜がきつく感じられます。しかしながら、足元の収益計画、受注計画が堅固であることに変わりありません。応援して下さる顧客・株主の皆様の暖かい声と当社の競争優位分野における堅調な市場動向に支えられつつ、今のペースを維持して駆け上がってまいります。グループ会社を含めたリスク管理能力を更に高めていくことにより、当面のゴールである累積損失の早期解消を実現していきたいと考えております。引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。

営業の概要

当中間連結会計期間において、国内プラント市場では、石油各社による燃料油の低硫黄化案件や化学各社が進める中国での樹脂製造設備などへの投資が堅調に推移しております。また政府主導によりCO₂削減に向けた火力発電燃料のLNG転換事業が開始されたことを受け、今後クリーンエネルギーとしての天然ガス利用が拡大する見通しの中、LNG受入基地に関する検討が活発化してきました。

海外プラント市場では、北米での天然ガス生産が漸減傾向にあり、その対策としてエネルギーの海外調達を積極化する米国

当中間期の主な受注工事

	天然ガスヴァリューチェーン・海外部門	国内部門
100億円以上	LNGプラント/原油輸出設備 追加 (ロシア) ガス開発プロジェクト 追加 (カタール)	
100億円未満	塩化ビニリデン樹脂プラント(中国) LNGプラント 追加 (カタール)	LPG国家備蓄プロジェクト 水素化脱硫装置(新日本石油精製) 貯油タンク増設(三菱プラント工業)

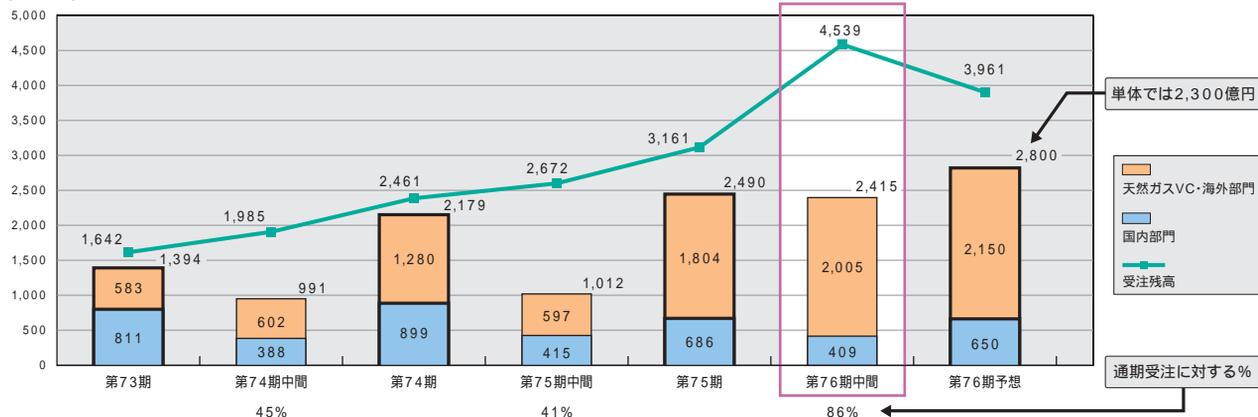
当中間期の主な完成工事

	天然ガスヴァリューチェーン・海外部門	国内部門
100億円以上	LNGプラント増設(カタール)	
100億円未満	エチレンプラント(サウジアラビア) LNGプラント(オマーン) LNGプラント(ロシア) メタノールプラント(サウジアラビア)	原油スプリッター設備(太陽石油)

工事進行基準適用工事

引き続き好調な受注

(単位:億円)



によるLNG輸入の拡大が見込まれます。

市場の自由化によりガス供給事業への新規参入が活発化している欧州諸国でも、LNG輸入量が引き続き増加傾向にある中、英国では新たなLNG輸入を発表しました。

また、インドはカタールとLNG供給契約を結び、中国もガス購入契約をインドネシアやオーストラリアと締結するなどエネルギーのガスシフトは着実に進捗しつつあります。

一方、テロ等による政情不安が続く中近東諸国においても、ガス処理設備、LNG・LPG設備の増設計画が引き続き堅調に推移しました。

こうした状況の下、当中間連結会計期間の連結受注工事高は、当初予定通り大型案件を獲得できたため、期首発表通期予想2,700億円の9割程度を中間期末迄に達成し2,415億22百万円(前中間連結会計期間比138.6%増)となり、その内訳は、国内409億34百万円(同1.4%減)、海外2,005億88百万円(同235.9%増)となりました。

一方、連結完成工事高については、大型工事の進捗が順調に上がったため、期首発表した中間予想800億円を10%上回る886億79百万円(同27.9%増)となり、その内訳は、国内278億48百万円(同8.5%減)、海外608億31百万円(同



サハリンLNGプラントの全景完成予想図

2007年の運転開始に向けてスタートを切った、世界最大級のサハリンLNGプロジェクト。



去る6月2日に、サハリンLNGプロジェクトの契約調印式が、第22回世界ガス会議の展示場で行われた。

56.3%増)となりました。

業績面では、選別受注の徹底、プロジェクト遂行力及びリスク管理力の強化による個別工事採算の改善、販売費及び一般管理費の削減効果など複合要因の結果、営業利益は24億95百万円(同142.3%増)となり、経常利益についても、期首発表14億円を115%上回る30億11百万円(同84.6%増)へ大幅増となりました。中間純利益は、回収懸念債権の減少等に伴う貸倒引当金戻入れ、及び業績本格回復に伴う繰延税金資産計上で期首発表10億円を116%上回る21億62百万円(同12.8%減)の計上となりました。

連結業績

(単位:億円)

科目	第75期	第76期予想	増減	期首時点第76期予想
受注高	2,490	2,800	+310	2,700
受注残高	3,161	3,961	+800	3,861
売上高	1,663	2,000	+337	2,000
営業利益	15	48	+33	45
経常利益	23	50	+27	42
当期純利益	19	41	+22	34

この資料には、2003年11月13日現在の将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。



完成した太陽石油(株)向け原油スプリッター装置。

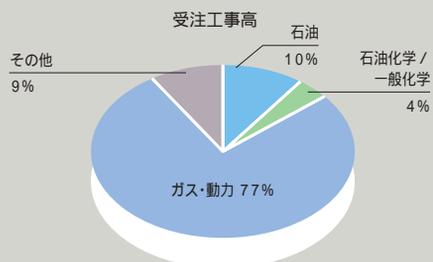


建設中の水島エルエヌジー(株)向けLNGタンク。

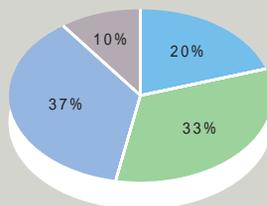


12月の完成をめざして建設が進むラスラファン液化天然ガス社向けカタールのLNG液化プラント。

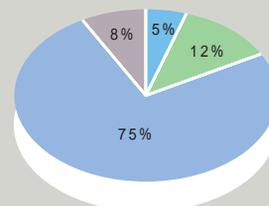
当中間期の分野別割合



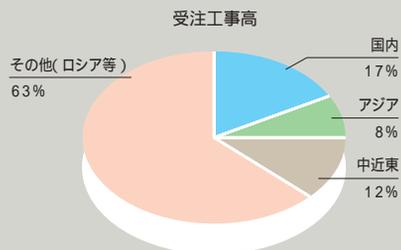
完成工事高



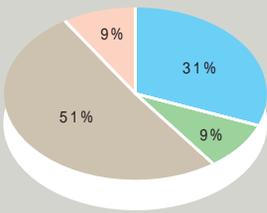
受注残高



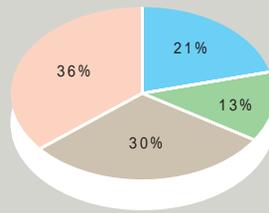
当中間期の地域別割合



完成工事高



受注残高



業績の推移



連結決算レポート

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第75期 (2003年3月31日現在)	第76期中間 (2003年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	96,929	115,071
現金預金	36,112	32,272
受取手形及び完成工事未収入金	25,374	29,417
未成工事支出金	21,105	27,273
ジョイントベンチャー持分資産	8,672	20,257
その他流動資産	6,293	6,387
貸倒引当金	628	536
固定資産	23,367	22,991
有形固定資産	7,067	6,998
無形固定資産	2,317	2,416
投資等	13,983	13,577
資産合計	120,297	138,063
負債の部		
流動負債	89,404	104,571
支払手形及び工事未払金	46,511	42,197
未成工事受入金	25,172	41,389
短期借入金	8,202	8,066
その他流動負債	9,518	12,916
固定負債	13,724	14,271
長期借入金	10,422	10,367
その他固定負債	3,302	3,903
負債合計	103,129	118,842
少数持株分	499	504
資本の部		
資本金	12,027	12,027
資本剰余金	5,818	5,818
利益剰余金	496	1,312
自己株式ほか	680	443
資本合計	16,669	18,715
負債・少数持株分及び資本合計	120,297	138,063

流動資産

前期末と比べ181億円増加し、1,150億円となりました。これは、現金預金が38億円減少した一方で、受取手形及び完成工事未収入金が40億円、未成工事支出金が61億円、ジョイントベンチャー持分資産が115億円それぞれ増加したことによります。

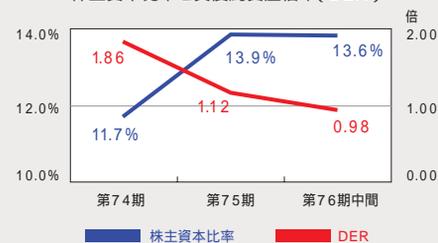
固定資産

前期末と比べ3億円減少し、229億円となりました。

流動負債

前期末と比べ151億円増加し、1,045億円となりました。これは、支払手形及び工事未払金が43億円減少した一方で、未成工事受入金が162億円、その他流動負債が33億円それぞれ増加したことによります。

株主資本比率と負債純資産倍率(DER)



資本の部

中間純利益21億円を計上したことから、累積損失は解消され、利益剰余金は13億円となりました。この結果、資本合計は187億円で前期末と比べ20億円の増加となりましたが、総資産額の増加により株主資本比率は13.6%となり、前期末と比べほぼ横ばいとなりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第75期中間	第76期中間
	自2002年4月1日 至2002年9月30日	自2003年4月1日 至2003年9月30日
完成工事高	69,344	88,679
完成工事原価	63,852	82,098
完成工事総利益	5,492	6,580
販売費及び一般管理費	4,462	4,085
営業利益	1,029	2,495
営業外収益	1,250	884
営業外費用	648	367
経常利益	1,631	3,011
特別利益	2,015	200
特別損失	970	1,425
税金等調整前中間純利益	2,677	1,787
法人税、住民税及び事業税	888	267
外国税金還付額	317	-
法人税等調整額	388	659
少数株主利益	15	17
中間純利益	2,479	2,162

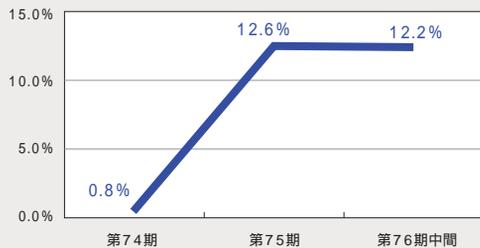
営業利益

営業利益率は2.8%となり、前中間期の1.5%より1.3ポイントの増加となりました。

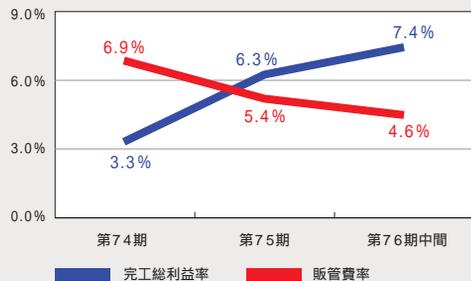
中間純利益

中間純利益21億円を計上した結果、株主資本中間(当期)純利益率(ROE)は12.2%(前期12.6%)、一株当たり中間(当期)純利益(EPS)は11.68円(前期10.79円)となりました。

株主資本中間(当期)純利益率(ROE)



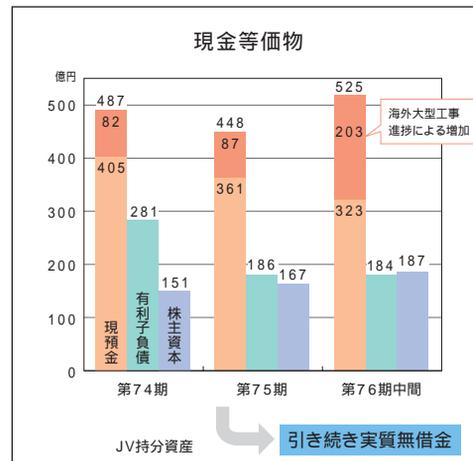
完工総利益率と販管費率



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	第75期中間	第76期中間
	(自2002年4月1日 至2002年9月30日)	(自2003年4月1日 至2003年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間(当期)純利益	2,677	1,787
減価償却費	623	595
その他の損益	1,438	20
営業に関する資産の減少額	4,845	10,210
営業に関する負債の増加額	7,580	11,904
その他の資産・負債の増減	141	7,490
(小計)	4,456	3,392
利息及び配当金の受取額	1,390	462
法人税等の支払額	379	243
その他	364	205
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,103	3,378
投資活動によるキャッシュ・フロー	289	673
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金純減少額	4,148	45
長期借入金純減少額	426	142
その他	15	53
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,591	241
現金及び現金同等物の中間期末残高	38,828	31,145



キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなりましたが、これはジョイントベンチャー工事の増加に伴い、JV持分資産が増加したことによります。従いまして、ジョイントベンチャー持分資産を除く実質的な営業活動によるキャッシュ・フローは82億のプラスとなります。

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科 目	第75期中間	第76期中間
	(自2002年4月1日 至2002年9月30日)	(自2003年4月1日 至2003年9月30日)
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	5,818	5,818
資本剰余金中間期末残高	5,818	5,818
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	2,516	496
利益剰余金増減	2,499	1,810
中間純利益	2,479	2,162
その他	20	352
利益剰余金中間期末残高	16	1,312

単体決算レポート

貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第75期 (2003年3月31日現在)	第76期中間 (2003年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	71,513	86,545
固定資産	25,879	24,139
有形固定資産	3,305	3,336
無形固定資産	2,257	2,348
投資等	20,315	18,454
資産合計	97,392	110,684
負債の部		
流動負債	71,575	83,589
固定負債	12,623	13,219
負債合計	84,198	96,809
資本の部		
資本金	12,027	12,027
資本剰余金	5,818	5,818
利益剰余金	4,604	3,869
自己株式	48	101
資本合計	13,193	13,875
負債及び資本合計	97,392	110,684

損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第75期中間 (自2002年4月1日 至2002年9月30日)	第76期中間 (自2003年4月1日 至2003年9月30日)
完成工事高	50,013	70,703
完成工事原価	46,448	66,625
完成工事総利益	3,565	4,077
販売費及び一般管理費	3,276	2,839
営業利益	288	1,238
営業外収益	2,266	694
営業外費用	703	336
経常利益	1,850	1,596
特別利益	2,010	297
特別損失	893	1,801
税引前中間純利益	2,967	92
法人税、住民税及び事業税	29	14
法人税等調整額	-	657
中間純利益	2,937	735

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	第75期中間 (自2002年4月1日 至2002年9月30日)	第76期中間 (自2003年4月1日 至2003年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,422	2,904
投資活動によるキャッシュ・フロー	500	308
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,950	3,666
現金及び現金同等物の中間期末残高	29,815	23,230

TOPICS

ニュースヘッドライン

4月3日 カタールでエクソンモービルから大型ガス開発プロジェクトを受注し、天然ガス・ヴァリューチェーン案件に本格参入。

5月16日 日本のエネルギー開発史上最大のプロジェクトとなる「サハリン2」LNGプラント(ロシア初、世界最大級2系列960万トン、シェル開発の新プロセスを初採用)を東洋エンジニアリング(株)及びロシア企業と共同で、サハリンエナジー社(シェル:55%、三井物産(株):25%、三菱商事(株):20%により出資されたプロジェクト投資会社)から受注。6月2日にはEPC(設計・調達・建設)契約締結。

6月24日 商業用DME(ジメチルエーテル)製造プラントのフロントエンド設計業務を石川島播磨重工(株)と共同で、JFEホールディングス(株)と日本鋼管(株)と川崎製鉄(株)の合併により設立から受注。

7月4日 日本の専業エンジニアリング企業で初となる環境報告書を発行しました。

当社のホームページに掲載しております。ホームページアドレスについては裏表紙をご参照下さい。



9月24日 世界的に年間4% 5%程の需要の伸びがあり新規計画が期待されるエチレンについて、KBRとエチレン・アライアンス継続の契約調印締結。



署名をするスタンレー会長(左)と関社長

11月10日 当社グループの千代田工商(株)が設計施工したアサヒ環境システム向け「名古屋オーガニックバイオセンター」が今年度の日経優秀先端事業所賞を受賞。

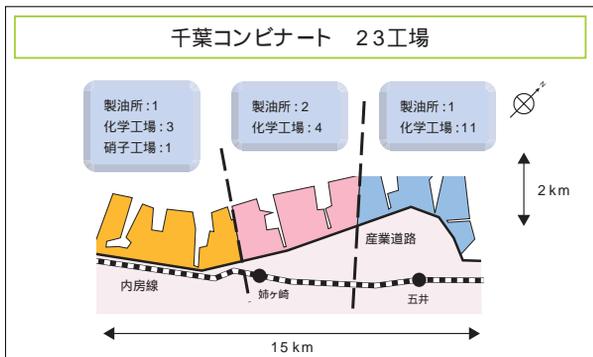
同センターは、生ゴミと剪定枝のチップを自然発酵させて堆肥をつくるプラントです。



コンビナートを丸ごと省エネする《ピンチテクノロジー》



当社は、ピンチテクノロジーという技術を用いて、コンビナートなどの複数工場間の、エネルギー共有による省エネルギー事業の、提案から実現までを目指す、新たな事業に取り組んでいます。主要コンビナートの一つである千葉コンビナートを対象に選定し、五井・姉ヶ崎・袖ヶ浦の三地区から、合計20社(23工場)の協力を得て研究開発を実施した結果、エネルギーシステムの最適化による千葉コンビナート全体でのエネルギー共有による理論省エネ余地は、日本の原油消費量の1日分に相当する、原油換算約64万kL/年であることが明らかになりました。ここで得たデータを基に、エネルギー共有の省エネ共同



事業を提案した結果、まず第1号プロジェクトが、2003年から3年間の予定で開始されました。

一方、ピンチテクノロジーを用いて、水島コンビナートの検討も実施しています。水島コンビナートは、35工場の協力を得て、エネルギーデータを提供して頂いています。

千葉、水島コンビナートのエネルギー共有事業スケジュール



環境に取り組む千代田グループ

CT-121 中国向け第1号ライセンス供与

当社は(株)荏原製作所、当社関係会社EEC(エンバイロメンタル・エンジニアリング社)経由でCT-121(湿式排煙脱硫装置)の中国向け第1号のライセンス供与を行い、現地中国側のサブ・ライセンシー12名に技術研修を実施しました。



講師の説明に熱心に聞き入る博奇電力科技有限公司の技術者

INCHEM TOKYO 2003展示会でプラント・ライフサイクル・エンジニアリング(PLE)を紹介

千代田グループは、去る11月4日～7日まで東京ビッグサイトで開かれた INCHEM TOKYO 2003展で、プラント・ライフサイクル・エンジニアリング(PLE)をテーマに出展し、事例紹介を含めて現在展開している活動をアピールしました。

PLEとは、プラントの計画から廃棄まで、ライフサイクル全体を対象とするエンジニアリングの考え方です。



当社グループの展示ブースでPLEの事例紹介も行われた

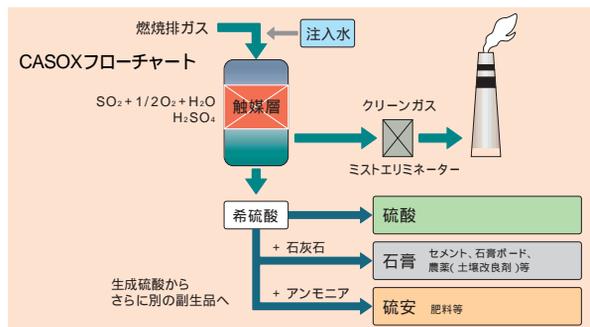
軽油超深度脱硫用チタニア触媒の開発

当社はNEDOの研究プログラムに参画し、軽油中サルファー10ppm以下に対応可能なチタニア触媒を開発しました。最近行った触媒性能評価試験で、当社の開発したチタニア触媒は高い性能を保有するとの評価結果を得ております。



チタニア合成試験施設

CASOX(接触法排煙脱硫プロセス)第1号基完成
技術開発を行っていたCASOXプロセスの第1号基が新日本石油精製(株)大阪製油所で順調に稼動を開始しました。
本プロセスは従来の石灰・石膏法と異なり、排ガス中のSO₂を触媒酸化し、硫酸として回収・外販することになります。



会社の概況

会社概要

設立	昭和23年1月20日
資本金	12,027,676,450円
従業員	単体従業員数 1,087名、連結従業員数 2,638名
主要な事業内容	石油、ガス、石油化学、一般化学、原子力、石炭、電力、製鉄、造水、食品、生化学、医薬品、医療、運輸、流通等の産業用、民生用設備並びに公害防止、環境改善及び災害防止用設備等についての計画、設計、製作、建設、試運転
主要な営業所及び事務所	本店 / 横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12-1 子安オフィス / 横浜市神奈川区守屋町三丁目13 研究開発センター / 川崎市川崎区南渡田町1-1
海外駐在員事務所	ハーグ、ドーハ、アブダビ、テヘラン、シンガポール、ジャカルタ、北京、上海

主要な連結子会社

千代田計装株式会社	横浜市神奈川区
千代田工商株式会社	横浜市鶴見区
アローヘッド・インターナショナル株式会社	東京都港区
千代田テクノエース株式会社	横浜市神奈川区
ユートック・コンサルティング株式会社	横浜市鶴見区
アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社	東京都港区
千代田アドバンス・ソリューションズ株式会社	横浜市神奈川区
千代田シンガポール・プライベート・リミテッド	シンガポール
千代田インターナショナル・コーポレーション	アメリカ合衆国
千代田マレーシア・センドリアン・ベルハダ	マレーシア
千代田インターナショナル・リミテッド	イギリス
千代田ナイジェリア・リミテッド	ナイジェリア
千代田タイランド・リミテッド	タイ
ビー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア	インドネシア
千代田アジア・パシフィック・プライベート・リミテッド	シンガポール
シー・アンド・イー・コーポレーション	フィリピン
千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド	ミャンマー

主要な関連会社

株式会社アローメイツ	横浜市中区
ITエンジニアリング株式会社	横浜市神奈川区
千代田ベトロスター・リミテッド	サウジアラビア
エル・アンド・ティー・千代田リミテッド	インド

役員

* 取締役社長	関 誠 夫
* 取締役副社長	山 村 彰
* 取締役副社長	ジョン L. ローズ
* 取締役副社長	成 富 尚 武
* 専務取締役	市 川 秀
常務取締役	源 淳 郎
常務取締役	久 保 田 隆
常務取締役	小 林 博
取 締 役	アルバート J. スタンレー
常勤監査役	川 名 通 彦
常勤監査役	石 渡 義 夫
監 査 役	藤 岡 琇 晃
監 査 役	今 出 川 幸 寛

(注) 1. *印は代表取締役を示します。
2. アルバート J. スタンレー氏を除く取締役は、執行役員を兼務しております。

常務執行役員	白 崎 善 宏
常務執行役員	門 山 明
常務執行役員	中 谷 秀 雄
常務執行役員	柴 田 博 至
執 行 役 員	香 田 圓
執 行 役 員	下 野 涉
執 行 役 員	坂 口 順 一
執 行 役 員	山 本 孝 士
執 行 役 員	長 田 文 雄

有資格者数一覧

資格名称	資格名称
土木施工管理技士 - 1級 51	建築士 - 2級 5
土木施工管理技士 - 2級 1	技術士 - 建設部門 2
建築施工管理技士 - 1級 9	技術士 - 機械部門 9
電気工事施工管理技士 - 1級 ... 15	技術士 - 衛生工部門 4
電気工事施工管理技士 - 2級 ... 4	電気工事士 - 第1種 2
管工事施工管理技士 - 1級 ... 61	電気工事士 4
管工事施工管理技士 - 2級 8	電気主任技術者 - 第3種 11
建築士 - 1級 25	監理技術者 61

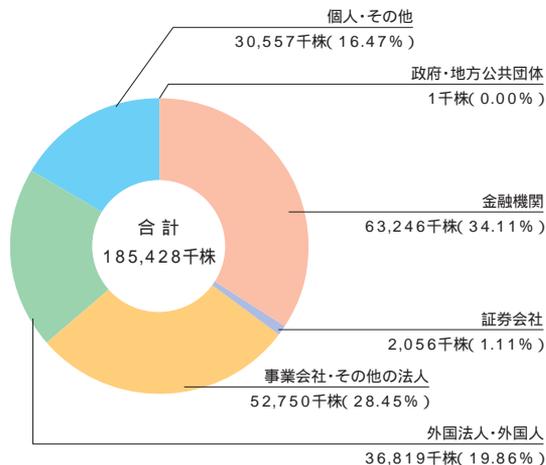
合計 272 名

株式の状況 (平成15年9月30日現在)

1 会社が発行する株式の総数	650,000,000株
株式の種類	普通株式 570,000,000株
	優先株式 80,000,000株
2 発行済株式総数	普通株式 185,428,529株
3 株主数	14,933名
4 大株主	

株主名	当社への出資状況	
	持株数	構成比
三菱商事株式会社	19,851千株	10.7%
日本トラスティサービス信託銀行株式会社信託口	12,827	6.9
三菱信託銀行株式会社	9,034	4.9
株式会社東京三菱銀行	9,033	4.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	7,488	4.0
ジェビーモルガンチェースCREFジャスデック レンディング アカウント	7,119	3.8
ケイビーアール・エムシーインベストメント株式会社	5,994	3.2
UFJ信託銀行株式会社信託勘定A口	5,588	3.0
株式会社荏原製作所	3,687	2.0
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラー アカウント	2,834	1.5

所有株数別分布状況



株式データ



株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会 基準日	毎年6月開催 定時株主総会については3月31日。そのほか必要 がある場合には、取締役会の決議によりあらかじめ 公告のうえ設定いたします。
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
同連絡先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話番号 0120-707-696(フリーダイヤル)
公告掲載新聞	日本経済新聞
一単元の株式の数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	6366

【お知らせ】

住所変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙、株式の相続手続依頼書など株式関係の手続き用紙のご請求は、名義書換代理人フリーダイヤル0120-707-696で承っております。

平成15年4月1日施行の改正商法により「株券失効制度」がスタートし、株券を喪失された場合の手続きが従来の公示催告・除権判決により再発行を受ける手続きより簡便となりました。詳細は名義書換代理人にご相談ください。

従来より日本経済新聞に掲載していた貸借対照表及び損益計算書の開示については、当期より当社ホームページに掲載することとさせていただきます。

ホームページアドレスは次のとおりです。

http://www.chiyoda-corp.com/index_i.html



千代田化工建設株式会社

本店 〒230-8601 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号
電話 045-521-1231(代表) FAX 045-503-0200

<http://www.chiyoda-corp.com/>